海外における障害者への性暴力被害の状況【概要】

岩田千亜紀（東洋大学社会学部社会福祉学科）

出典：岩田千亜紀『障害者への DV などの暴力についての国際的な動向と課題：文献レビュー』「東洋大学社会学部紀要」55-1, 43-55, 2017 年.

1. 健常者よりも障害者では性暴力被害の割合が高い
   海外で行われた障害者（身体障害者、知的障害者、精神障害者）への性暴力被害の状況について調べたところ、健常者の男女に比べて障害者の男女では、性暴力被害の割合が顕著に高くなっていた。特に、障害女性では健常女性のほぼ 2～3 倍、性暴力被害を受けていた（表 1 参照）。
2. 障害者への性暴力被害においては、長期間、複数回にわたる被害が多い
   障害者への性暴力の特徴としては、長期間にわたる被害や、複数回にわたる被害が多いことである。知的障害者をふくむ発達障害者への暴力に関する調査（Sobsey et al. 1991）によれば、発達障害の女性の 70%が性暴力を受けたことがあり、知的障害のある女性の半数近くが、生涯で 10 回以上も性暴力の被害に遭った。また、それらの被害は時には重篤で、非常に危険な状況を招くこともあった。
3. 性暴力被害の多くは自宅で発生している。加害者には、男性健常者の介護者などが多い
   多くの場合、被害は被害者の自宅や居住地で発生している。加害者はほぼ男性である。加害者には、友人、家族（夫など）、医療従事者、介護者、移動介助者などが含まれるが、特に男性健常者の介護者などによるものが多い（Young et al. 1997）。
4. 性暴力は、被害者の心身に甚大な影響を与える
   発達障害のある男女への暴力被害についての調査（Platt et al. 2017）では、暴力被害は健康状況の悪化と関係がある。暴力の被害を受けた発達障害者の男女では、うつ病評価尺度（CESD）や心的外傷後ストレス障害（PTSD）の値が高く、特に性暴力の被害を受けた男女では、近くされたストレス尺度（PSS）が高くなっていた。
5. 障害者は性暴力被害から逃れることが困難である
   身体障害のある女性を対象にした調査（Nosek et al.2006）では、女性の身体障害者のうち、介護を常に必要とする場合は、介護者への依存度が高まり、性暴力の被害から逃れることが困難であるなどの理由から、性暴力の被害に遭う確率が高くなっている。さらに、女性の年齢が低いこと、社会的な孤立傾向、うつ傾向と性暴力の被害には、高い相関性が見られる。
6. 性暴力被害を受けた障害者は、支援を求めることが困難である
   性暴力被害に遭った身体障害のある女性を対象とした調査（Millberger et al.2003）では、性暴力の被害を受けた女性のわずかしか支援を求めず、適切な支援を得ることができなかったことが分かっている。その理由として、自分で何とかしようと考えたこと、どこに行けば支援を受けられるのか分からなかったこと、恥ずかしかったこと、暴力を受けたことは自分のせいだと思ったこと、支援を受ければ加害者に報復されると考えたこと、何も信じられなかったこと、シェルターでは適切な支援を受けられないと思ったことなどが挙げられた。

【結論】障害者の場合、障害の特性により、性暴力の被害に遭う割合が高い。しかし、物理的なアクセスや情報アクセスが十分でないことに加えて、加害者の多くが介護者等であるため、性暴力被害から逃れることは困難である。障害者のおかれた状況に配慮した支援体制を講じることが必要である。

表１　障害者への性暴力被害の状況について（海外での調査結果）

著者（年）/国	対象者	結果
Basile et al. (2016) アメリカ	女性 9,086 人、男性 7,421 人（18 歳以上）	障害をもつ男女は、障害をもたない人に比べて、性被害の割合が高くなっていた。
Mitra et l. (2016) アメリカ	男性 49%、女性 51%。そのうち障害者は男性 18.9%、女性 21.6%	一生のうちに性暴力被害に遭った率は障害男性が 8.8%、健常男性は 6.0%、女性障害者は 25.6%、女性健常者は 14.7%。そのうち、女性障害者は最も親密な男性パートナーによる被害に、男性は知人からの被害に遭っていた。
Krnjacki et al. (2015) オーストラリア	オーストラリア人 17,000 人（15 歳以上）	障害者への暴力の発生率は、健常者よりも高く、男性よりも女性で高かった。女性障害者では性暴力やパートナーによる暴力が多く、男性障害者では身体的暴力が多くなっていた。また、精神障害者での暴力の発生率が最も高くなっていた。
Platt et al. (2015) アメリカ	発達障害者の男女（18 歳以上）350 人（男性 172 人、女性 177 人）、知的障害を含む（65%）	発達障害者の男性 63.7%、女性 68.2%が暴力被害に遭っていた。性暴力被害については、男性よりも女性の方が高くなっていたが、それ以外については男女で格差はなかった。女性は男性に比べて、親密なパートナーによる暴力被害が高かった。
Brown-Lavoie, et al. (2014) カナダ	高機能 ASD95 人（19-43 歳）、117 人の健常者（18-35 歳）の成人男女	成人 ASD では、健常者に比べて 2～3 倍、性暴力被害が多く発生していた。性的知識と性被害に関連性が見られた。
Hughes et al. (2012) イギリス	成人障害者 21,557 人（18-64 歳）	障害者への暴力の発生率は、精神障害者が 24.3%、知的障害者が 6.1%、その他障害者が 3.2%。障害者は被障害者に比べて性暴力被害が高くなっていた。
Smith (2007) アメリカ	男性 136,201 人、女性 219,911 人、障害女性 49,756 人	障害女性の被害は、健常女性および障害男性に比べて全てで高くなっていた。特に望まないセックスで最も高くなっていた。
Brownridge (2006) カナダ	男女 25,876 人（15 歳以上）、既婚女性 7,027 人、障害女性 1,092 人、健常女性 5,935 人	過去 5 年間の暴力について、女性障害者は健常女性と比べて、身体的暴力は 2 倍、性暴力は 3 倍高くなっていた。また、男性側の性に関する意識や、男性優位なイデオロギーが障害女性への暴力と大きく関係していた。

出所：岩田千亜紀（2018 年）「障害者への DV などの暴力についての国際的な動向と課題：文献レビュー」東洋大学社会学部紀要 55-1, 43-55 を一部修正。